





□水上交通の復活による  
広域ネットワークの創出  
水防壁と防潮堤を核とした治水防波システム  
の創出を行う。また、舟艇や遊覧船による  
中継や対岸へのイベントを開催する。

□ビオトープの創出と環境教育の  
フィールドづくり  
水防壁防潮堤の整備、治水防波システム  
の創出を行う。また、舟艇や遊覧船による  
中継や対岸へのイベントを開催する。

**凡例**

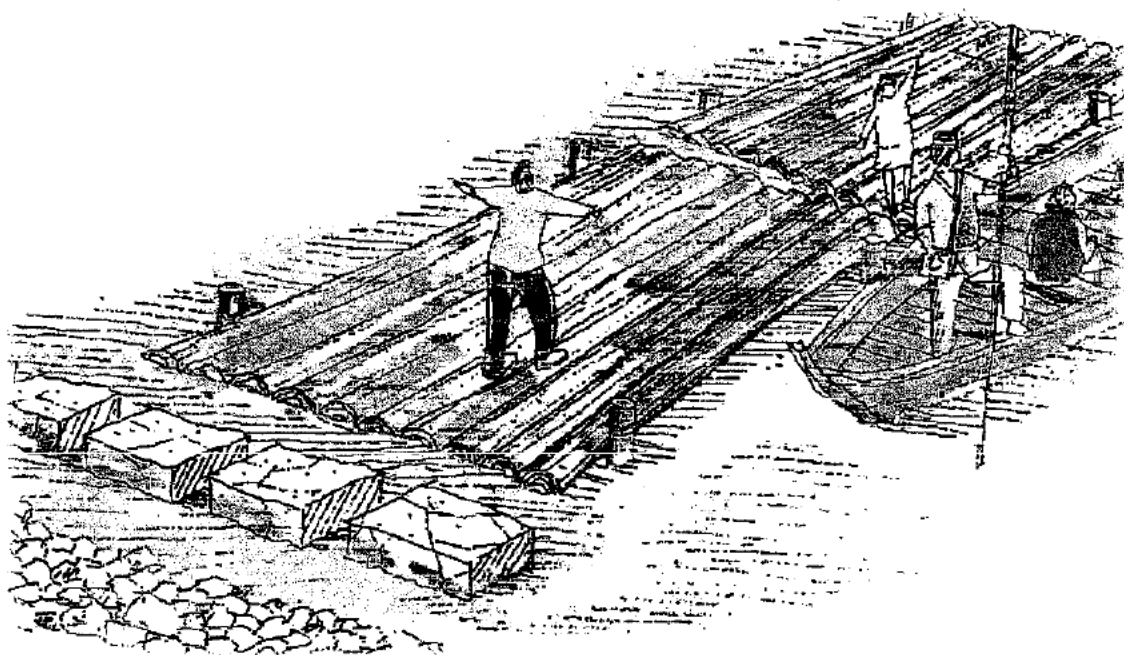
-  遊水・体験ブロック
-  知水・利用支援ブロック
-  景観緑地ブロック
-  生態系保全ブロック

## 5) 各ブロックの目的と導入施設

各ブロックの整備の目的と導入施設の内容を示す。

### ○遊水・体験ブロック

現況の河川空間特有のポテンシャルを生かした整備ならびに支援を行なうブロックとする。船着場や体験学習施設などレクリエーション活動の場や、誰もが水に親しめる水辺づくりを行ない、積極的な利用を図る。



○レクリエーションゾーン…休日にはピクニック客で賑わう美しい河原を守り、楽しんでいくためにソフトの支援を継続して行なっていく。また、より快適に利用するための駐車場やトイレなどの支援施設との連携を図る。

○船着場…イベント時には、昔の風景を思わせる筏を係留させ、渡し舟や川巡りを行なうための船着場とする。また、平時においても飛び石と木杭の配置により、水辺のアメニティを向上させる。

○ボードウォーク…高水敷部に木製のデッキを配し、テラス型のたまり空間とする。



○知水・利用支援ブロック

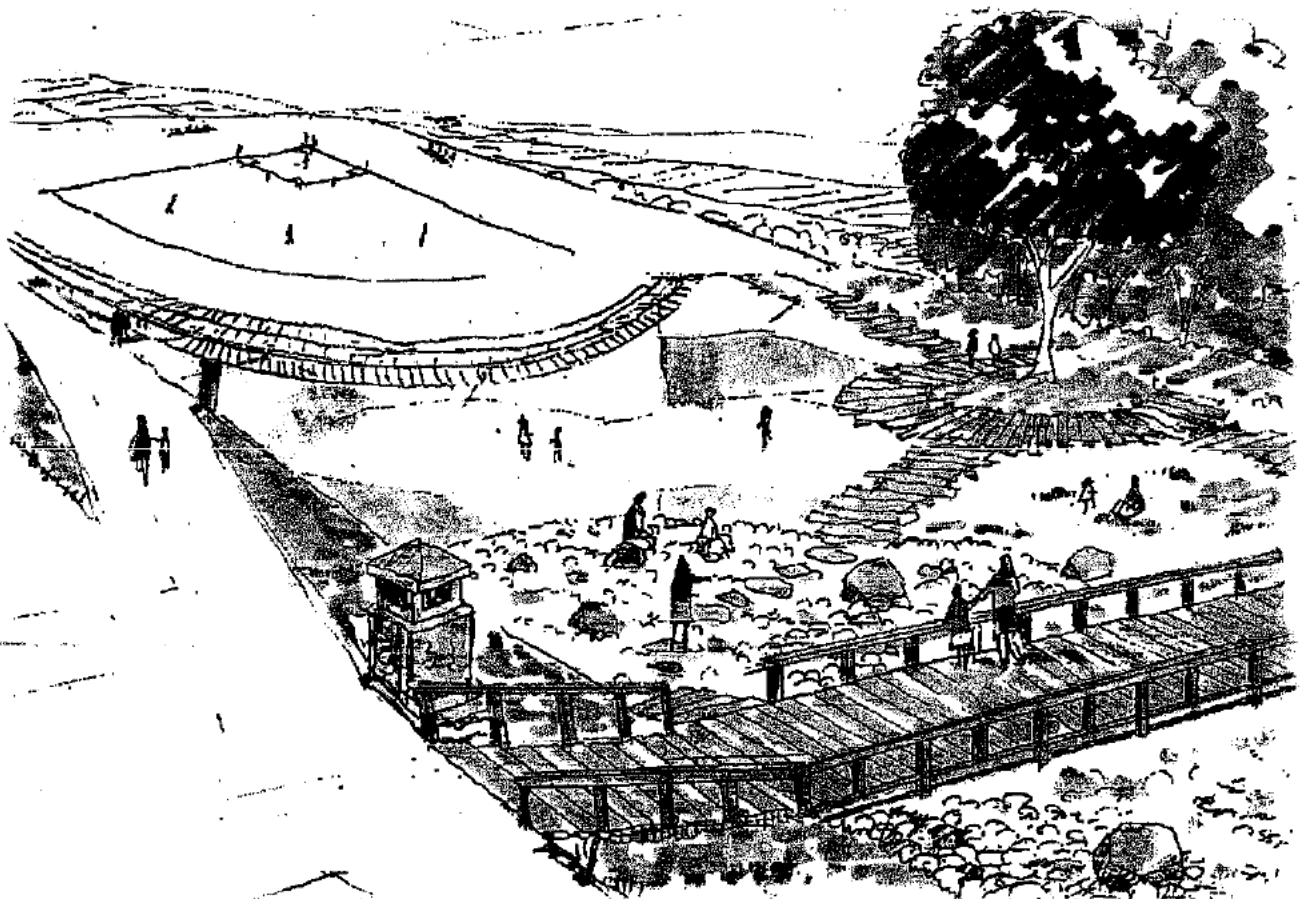
点在する史跡や歴史街道を結びつけることによって木津川の歴史性を知ることができ、かつ利用者が快適にレクリエーションが行なえるのための支援を行なうブロックとする。木津川や周辺の町の歴史を伝える歴史散策の開催や木津川渡し船の再現などのイベントを展開していくと共に、駐車場やトイレ、案内施設などの施設の整備を行なう。

○泉橋広場…現在も橋脚の残る泉橋跡には、旧奈良街道の軸線を象徴するデッキを配置する。休憩やイベントなど多様な活動ができる多目的空間として、隣接する町営グラウンドとの一体的な活用を図る。

○木の津広場…都の外港として多くの材木が陸揚げされ、加工されていた当時の雰囲気演出するための木屋所風の東屋や木製遊具を配置し、近隣の上津遺跡や御霊神社と併せて歴史体験空間とする。

○駐車場…町民グラウンド脇に10台、市民農園横に50台程度の駐車スペースを設ける。

○トイレ…町営グラウンドの堤内地側に公衆トイレを設置する。



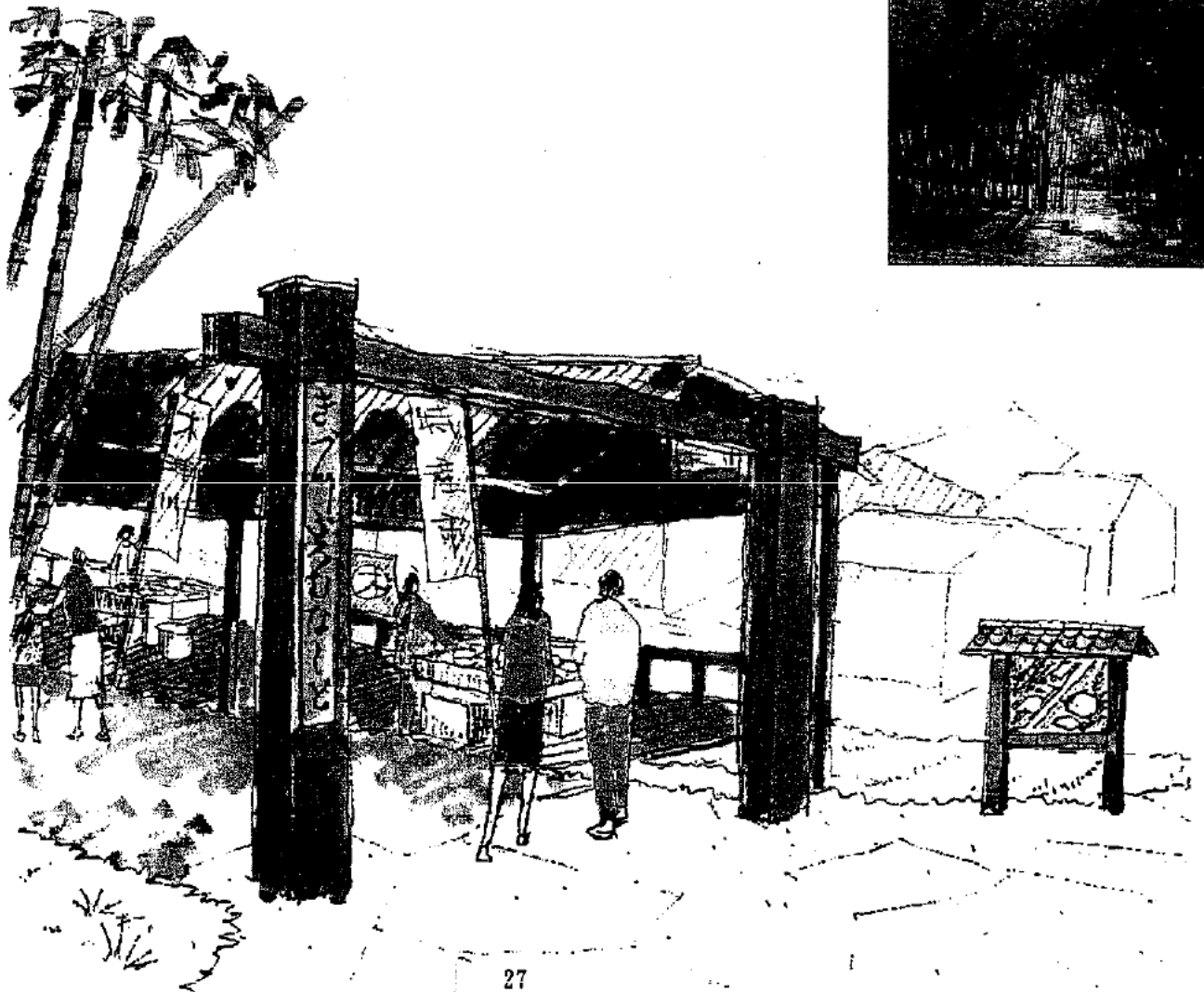
## ○景観緑地ブロック

現況の耕作地や緑地を活用し、木津川の景観形成を行なっていくブロックとする。耕作地の管理や支援、整備による住民同士の交流や、自転車道や散策道など線的な地形に合わせた動線の中で草花の植栽により木津川の季節感の演出を行なう。

○ながやぶ広場…水防林として機能してきた竹林を利用して、散策道の整備を行なう。その中核的な場所となるこの広場は、休憩スペースや近隣の施設の紹介、イベントの開催を行なう場所とする。

○市民農園…放棄耕作地や民有畑地の貸し出しによる市民農園を開園する。また、不良な農産物やパーベキュー時のゴミを処理する施設を設置し、コンポスト化により農園の土壌への還元を図る。

○歴史プロムナード…街道沿いの船着場としてさまざまなものが陸揚げされていた当時の雰囲気は今に伝えるプロムナードを整備する。お茶や飲食物のサービスや、付近で取れた農作物の販売を行なう。



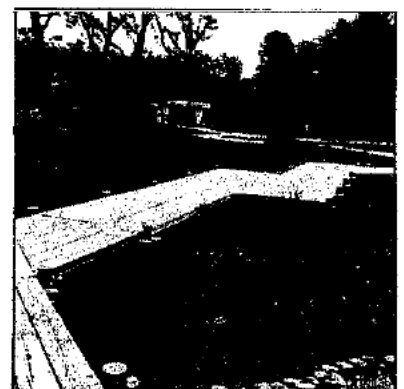
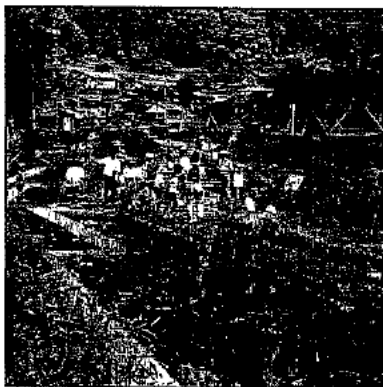
○生態系保全ブロック

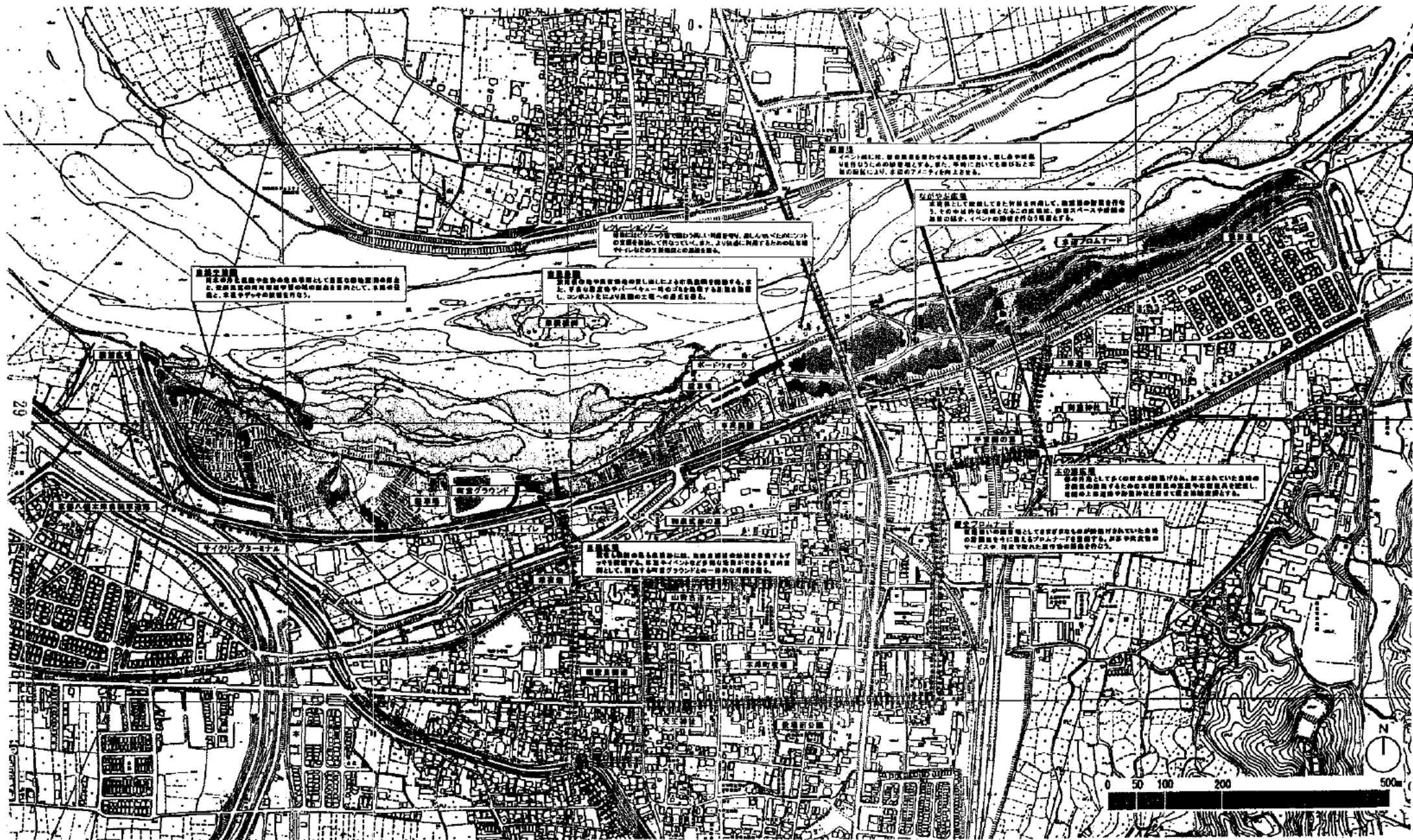
セイタカヨシやモウソウチク林などの現況植生や水辺の保全を行なっていくブロックとする。

昆虫や鳥類の生息環境、および砂洲の安定や現地形の維持を支えている重要な緑地と、飲料水等の水源としている清らかな水を持つ川への愛着を生み出すものとする。

○自然生態園…川水の浄化機能や生物の生息場所として重要な緑地空間の保全と、近隣児童の河川環境学習の場の創出を目的として、水路の整備と、木道やデッキの設置を行なう。

○保全緑地…アシの茂る水際や中洲部など良好な緑地を保持している区域は、サンクチュアリ（聖域）として保全を図る。





平成14年4月1日

淀川水系流域委員会 庶務 御中

枚方市役所 大橋謙一

淀川水系流域委員会への資料提供

本市では、毎年市政モニターによるアンケート調査を実施していますが、平成13年度は「淀川」など3項目について調査を行ないました。

「淀川」については別紙の通りです。

淀川部会での検討の資料として御活用いただければ幸いです。

なお、設問によっては複数回答になっているものもあることから、回答の合計が100%を越えているものもあります。

# 平成13年度 市政モニター概要

1. 調査内容 「図書館について」「市立枚方市民病院について」「淀川について」

2. 調査実施日 アンケート発送日 平成13年7月19日  
 回収締切日 平成13年7月31日

3. 回答率

	男性	女性	計
モニター数 (人)	118	147	265
回答数 (人)	104	131	235
回答率 (%)	88	89	89

4. 年代別・男女別回答者数

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	計
男性 (人)	9	10	12	13	60	104
女性 (人)	12	43	23	29	24	131
計 (人)	21	53	35	42	84	235

5. 職業別回答者数

職業	人数 (人)	構成比 (%)	職業	人数 (人)	構成比 (%)
会社員	50	21.3	専業主婦	65	27.7
自営業者	15	6.4	学生	2	0.9
公務員	6	2.6	無職	47	20.0
主婦(パート)	37	15.7	その他	13	5.5
			計	235	100

6. 回答者の年齢別内訳

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	計
人数 (人)	21	53	35	42	84	235
構成比 (%)	8.9	22.6	14.9	17.9	35.7	100



## ◇ 淀川について

本市の西側を流れる淀川は、古来から人や物資が往来し、その川岸には京街道や枚方宿が整備され、本市は発展してきた。また、川の近くに住んでいる市民は日々の生活の場でもあった。こうした淀川の恩恵の一方で、洪水により浸水などの大きな被害を受けたこともあった。

淀川は、広大な水面と河川敷を有し、水際の植物や鳥、魚類など多様な生物の生育生息の場となっており、身近な自然として親しめる。また、公園やグラウンドとして利用できるレクリエーション空間でもある。そして、現在、市民の飲み水の水源地は100%淀川である。

淀川に対する市民の考え方をお聞きして、今後の本市の各種施策や事業の進め方あるいは河川管理者等（国）への意見提出などの参考とするため、市政モニターのみなさんのご意見を伺った。

### ◆ 淀川への関心度

「関心を持っている」が50.2%と半数であるが、男女別には差があり、男性は64.4%、女性は38.9%となっており、男性がより関心度が高い。

関心のある項目としては男女とも「水質」についての関心が高いほか、「水資源」、「生態系」、「河川敷公園」などの関心が高かったが、若い世代は「河川敷でのイベント」に関心が高いなど、年代により関心度合いにばらつきがあるのが特徴である。

### ◆ 利用施設や場所

利用したことのある場所としては、「淀川河川公園枚方地区」が男女別、年代に関係なく高い利用率で、全体で48.1%と高い。このほか、「河川敷や堤防の道路」の利用が43.0%と高く、年代が上がるほど利用率が高くなる。また、男性

では「ゴルフ場」の利用も高い。

◆ 行く頻度

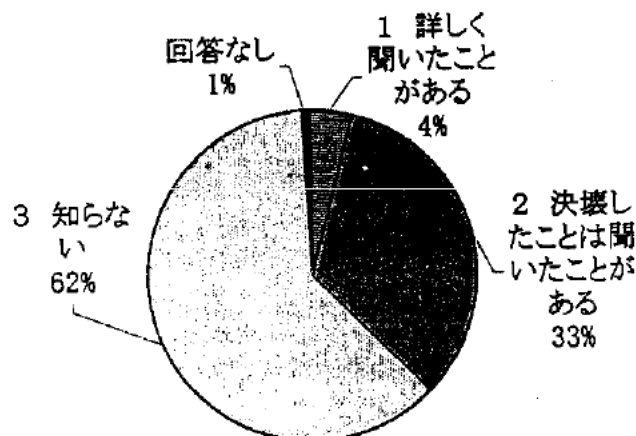
「年間1～2回」が44.7%と半数近くで、次に「月に1～2回」が24.7%である。一方、「ほとんど行かないや行ったことがない」が22.1%いる。その理由としては「自宅から遠い」、「出かけてもすることがない」、などとなっている。特に年代が上がるほど「自宅から遠いために行かない」が多くなる。

◆ 歴史や文化

「花火大会」は88.5%と9割近い人が知っていて、枚方を代表するイベントとして定着している。また、「枚方宿」66.0%、「三十石船」62.6%、「くらわんか舟」79.1%、「鍵屋」69.8%、「京街道」46.4%などが高い率を示している。特徴としては、女性より男性が、また年代が上がるほど高い率を示している一方、20歳代では「京街道」や「三十石船」の回答が低く、知られていない。

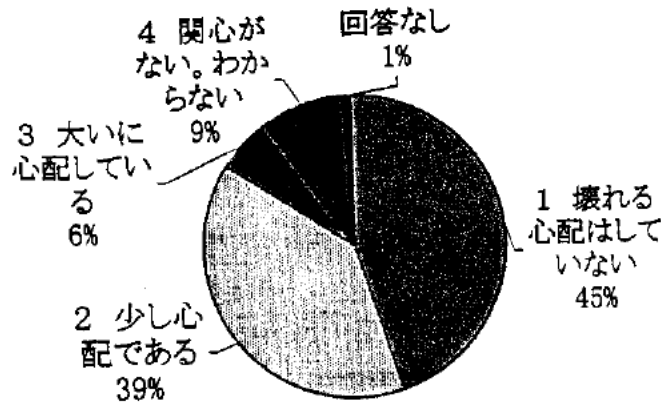
◆ 過去に堤防が決壊し、浸水があったことを知っているか

100年以上前のことということもあり、「詳しく知っている」が4.3%と極めて少なく、「知らない」が6割を越えている。若い世代ほど「知らない」という割合が高いことからこうした出来事が伝承されていないことがわかる。



◆ 堤防決壊に関する心配度合

「心配している」と「心配していない」がおおむね半々である。問5で堤防決壊の出来事を知らないと回答した人でも心配していることがわかる一方、「関心がない」という回答も1割弱あった。年代的な特徴としては、若い世代ほど関心がない割合が多い。



◆ 洪水ハザードマップ（防災マップ）

6割を超える人が配布されたことを知っているが、その半分近くは内容を知らない。また、配布そのものについても約3割の方が知らないことも考え合わせると、引き続き広報に努める必要がある。

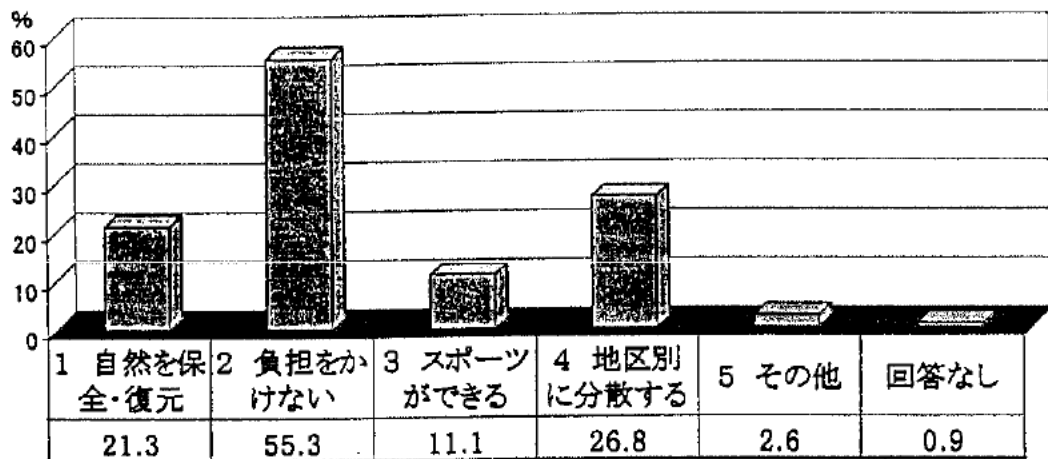
◆ 水道水

「安心して飲んでいる」が15.7%と低く、「生水を飲まないようにしている」が52.3%、「水質などに不安」が30.2%となっている。「生水を飲まない」、「不安だ」とする回答は、男性より女性がいずれも多い。具体的な理由としては「水源の水質」や「トリハロメタン」（注）に対して不安を感じている人が多い。

(注) トリハロメタン=水道水の原水に含まれている有機物質と塩素が反応して  
できる。

◆ 河川敷の今後のあり方

「自然に負担をかけない程度の利用が望ましい」が55.3%と過半数を占め、男女別、年代別とも同じような傾向である。「自然を保全・復元し、生物の生息・生育地とする」は21.3%、スポーツやイベントのできる施設や広場を整備」は11.1%、「地区別に分散する」は26.8%である。全体として施設志向より自然志向の回答になっている。



◆ 河川敷に増やすことが望ましいもの

全体に自然志向を示す回答が多く、スポーツ施設を求める回答は男女別、年代別にみても少ない。一方で、「トイレ」や「日陰」など利用の快適性を求める回答は多く、自由意見でも多くの方が指摘している。特に「日陰」を求める回答は57.9%と他に比べて極めて高い。男女別や年代別にみて多い回答としては、男性では「ヨシ原」、「ワンドや河原」が、年代の若い人や女性では「パーベキューのできる場所」や「幼児が遊べる施設」が多い。

#### ◆ ゴルフ場の扱い

「撤廃し、河川公園等にすべき」が約5割を占めているが、「残すべき」も約4割ある。40歳代、50歳代は存続を求める率が多く、それ以外の年代は撤廃を求める率が多く、年代により回答に差がある。

#### ◆ 水上交通としての舟運復活

「観光分野での活用」が36.6%と一番多く、続いて「イベントでの利用」や「防災時の利用」などになっていて、回答が多様であるが何らかの役割を期待している。「舟運復活を望まない」は12.3%である。また、年代によっては期待する利用に差があるのも特徴である。

#### ◆ よりよい淀川のために

「マナーの向上を求める」は80.0%の方が支持されている。男女別、年代別を問わず、圧倒的に多数を占めていて、課題の大きさを現している。「ボランティア活動」や「自然観察教室」などへの参加意欲は年代が上がるほど高くなる。

#### ◆ 情報入手の希望

「身近な施設での情報入手を期待する」が66.4%と多数を占めている。一方、20歳代では「入手したいと思わない」が31.8%となっている。

## ◆ 淀川についての意見（要旨）

### <川や河川敷の今後のあり方>

- ◎河川敷と川が分離してしまっているが、水と親しめる川の本形を残す必要がある。
- ◎鳥や虫がすむ「水辺の森」というものができないだろうか。
- ◎コンクリートだけの堤防よりもしっかりした護岸工事をしながらも草の生えた、虫のすむような堤防にし、気楽に水辺に降りていけるようにしてほしい。
- ◎今でも相当自然をこわして人工物を造っているのだから、これ以上は手を加えてほしくない。
- ◎これからの子供たちのために動植物を保全し、水辺の環境学習に利用すべき。
- ◎親子3代が利用できるような場所として自然を残した施設整備をしてほしい。
- ◎スーパー堤防に賛成ですが、あまり自然をこわしたくない。
- ◎自然環境はこわさず、人間と共存するような利用を望む。
- ◎せっかく川が流れているので、子供が川遊びできるようなところがほしい。
- ◎画一的な公園にせず、危険なところだけ手を加えて、自然と共存していくべき。
- ◎子供たちが水辺の自然に触れられる場所をふやし、自然の大切さを教えたい。
- ◎河川敷はこれ以上コンクリートで固めず、自然保護・復元に重点をおくべき。
- ◎整備しすぎない、管理しすぎないような環境保全を望む。
- ◎淀川は枚方に残る自然の中で最大のもの。人工的な侵蝕は極力避けて、自然への負荷が小さく、誰でも参加できるもの（例：遊歩道）を整備すべき。
- ◎河川敷にゴルフ場があるのはおかしい。早急に廃止するべきだ。
- ◎水辺の植物・鳥・魚などの生物が安心してすめる場に。
- ◎利便性にこだわらない河川敷の利用を。駐車場は必要ない。
- ◎スポーツ施設もいいのだが、唯一の自然の楽園として保存・再生に力を注いで。
- ◎基本的には自然に任せた状態で良い。それを利用した観光や憩いの場にする。

### <上流との関係など流域に関係するもの>

- ◎淀川下流の流域と琵琶湖のある滋賀県が話し合い、協力することが大事。
- ◎降雨後にゴミが多い。上流の京都、滋賀との連携が必要だと思う。
- ◎水源確保のため、琵琶湖周辺山林での植林に資金協力すべき。
- ◎安心して生水が飲めるような水質になるよう、上流の市や町と話し合いを。

### <水質の確保や飲料水等>

- ◎各家庭での排水の仕方や水の使い方に気をつけてほしい。
- ◎琵琶湖での水質の確保や昔のように葦をふやすことなどに関心がある。
- ◎周辺の市と共同して水質を良くする努力を継続する必要がある。
- ◎小学生のころから水質のことなどが学習できればいい。
- ◎淀川の汚染が気になり、石鹼洗剤を使用している。
- ◎飲み水の源なので、汚染されないように。有毒物質が完全除去できる浄水設備を。

- ◎淀川本流より市内支流の汚染やゴミの投棄が目につく。
- ◎飲料水の水源として、その水量、水質の確保が極めて重要である。
- ◎飲料水の源である淀川について、マスメディアに呼びかけ関心が持てるように。
- ◎水道水源として水系の水質汚染防止は重要課題。上流域で排水基準が守られているのか。ゴルフ場の農薬散布のチェック体制が必要。住民の生活排水の改善を。
- ◎飲料水の水源として琵琶湖から直接取水するべきだ。
- ◎生活に密着した大切な川なのだから、家庭からの生活排水について考えるべき。

#### <現在の利用上の支障や施設の改善>

- ◎日陰のできる樹木がたくさんほしい。小さい子供は脱水症状になってしまう。
- ◎河川公園は日陰がなく、木陰がほしい。
- ◎三矢地区ではゴミ箱が少ない。
- ◎トイレは数が少ないし、きれいではない。もう少し改善を。
- ◎バーベキュー場があれば利用したい。そこに野球場などがあれば利用者も増える。
- ◎河川公園は各地区で特色があればおもしろい。各地区にトイレは完備してほしい。
- ◎バーベキューのできる場所を広げてほしい。日陰になる場所がほしい。
- ◎野球やテニスの施設だけでなく、サッカーができる施設もほしい。
- ◎木陰や涼める場所があれば、過ごしやすい。
- ◎犬の散歩用のグラウンドを作り、囲いの中で放すようにしたらいい。
- ◎夏の暑い日は木陰がなく、利用しない。是非、木を増やしてほしい。
- ◎河川公園を日陰のできるレストハウス等の設備を備えた充実した憩いの場に。
- ◎淀川の歴史や川を知る施設の充実を希望する。
- ◎日陰になる場所がない。屋根のある休憩所を作るなどの配慮が必要。
- ◎河川公園枚方地区は陽をさえぎる場所がない。日陰スペースがほしい。
- ◎サイクリングコースのゲートが通過しにくいので、改善してほしい。
- ◎ラグビーの練習ができるグラウンドをぜひ作ってほしい。
- ◎子供が遊べる水辺公園や施設の充実を。仮設ではなくきれいなトイレを。
- ◎堤防を散歩に使うが、木陰もベンチもない。
- ◎ゴルフ場があるために川に立ち入りできない。グラウンドなどに一部開放を。

#### <川の保全や利用に際してのマナーの問題>

- ◎水質をきれいにすることは難しいが、ゴミをすてなくなればいいと思う。
- ◎皆が利用しやすく美しい川になるよう市民で協力したらいいと思う。
- ◎広場で犬を放すなどもってのほか。
- ◎ゴミや犬の糞は各自の意識を変える必要がある。市の条例で罰金制を。
- ◎大事な宝物の淀川を美しく後世に伝えるためにも公德心の涵養が必要。
- ◎犬の散歩のマナーが悪い人が多い。そういう飼い主の立ち入り禁止看板が必要。
- ◎愛犬家のマナーが悪いので、公園内には犬を入れないこと。
- ◎河川公園枚方地区はすばらしい。いつまでもきれいに使用したい。

<川の活用の提案、イベントや情報提供等>

- ◎枚方は淀川の歴史や文化に関わりがあるので、それが観光スポットになればいい。
- ◎自然を残して観光やイベントに利用してほしい。
- ◎自転車や舟、風を利用した楽しみ方も織りませたい。
- ◎舟運復活は可能になればおもしろい。でも料金は手頃な価格に。
- ◎舟運を復活して水上交通が盛んになれば交通停滞も解消できるかも。
- ◎舟運の経営は大変むずかしいので、赤字を増やすものはやらないで。
- ◎堤防に道路をつくり、交通の便をよくしてほしい。
- ◎車で行けない人のために河川敷へのバスの運行を希望する。
- ◎市民にアピールするイベントや講演などを開催してほしい。
- ◎もっとイベントなどの情報があればいろいろ利用したいと思う。
- ◎枚方で最も親しみやすい川なのだから、もっともっと市民にPRしてほしい。
- ◎河川公園はきれいに整備されてうれしい。イベント情報を知りたい。